

平成30年度  
第1回岡山市基本政策審議会  
会議録

日時：平成30年8月27日（月）13：30～15：30

場所：岡山市役所本庁舎3階第3会議室

平成30年8月27日（月）

開会

### 1 開会

○事務局（草野） それでは、ただいまより平成30年度第1回岡山市基本政策審議会を開催いたします。本日の司会を務めさせていただきます、政策企画課課長代理の草野でございます。よろしくお願いいたします。

開会に当たりまして、大森雅夫岡山市長よりご挨拶を申し上げます。

### 2 市長あいさつ

○大森市長 皆さんこんにちは。岡山市長の大森でございます。

このたびは30年度の基本政策審議会にご出席をいただきましてありがとうございます。

7月の豪雨では、岡山市、7,600を超える人家被害がございました。被災された皆様方には本当に心からお見舞いを申し上げるとともに、一日も早く日常を取り戻すべく、我々頑張っているところでございます。緊急対応等については、避難所に避難されている方がいなくなったということもあり、本日をもって岡山市の災害対策本部は閉鎖させていただきましたが、まだまだ事業者の活動、そして個人個人の生活の問題があり、我々としても対処していかねばならない問題が多いということで、今日付で岡山市の避難対策の避難者支援の本部をまた設けることといたしました。これからも被災者への支援を継続をさせていただきたいと思っております。

今日は、平成29年度の進捗状況について、取組状況をお話しさせていただきたいと思っております。忌憚のない厳しいご指摘をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局（草野） 続きまして、越宗会長からご挨拶をいただきます。

### 3 会長あいさつ

○越宗会長 委員の皆様には、審議会へのご出席、誠にご苦労さまでございます。ただいま市長からお話がありましたけれども、災害が少ないと言われた岡山市で、先月7月の、平成に入ってから最大ということでもありますけれども、大きな災害でありました。。浸

水被害、あるいは土砂崩れ、また道路が寸断すると、そういった被害によりまして、市民の日常生活、あるいは企業活動にいろんな大きな影響が生じたのは、皆様ご承知のとおりでございます。もうあれから1カ月以上がたったわけでございますけれども、なかなか被災前の状況には完全には戻らないといいますか、まだまだ旧来の日常は取り戻していないというのが率直なところだろうと思います。先ほど市長のお話もございましたけれども、今後とも被災地の復興、あるいは被災者の生活再建に向けて、さらなるご尽力をお願いしたいと、そのように思うわけでございます。

本日でございますが、お手元でございますが、平成30年度の第1回目の審議会ということでございまして、これから市の前期中期計画に係る平成29年度の取り組み実績及び岡山市の主な取組状況についての報告がございます。委員の皆様には、今後、市が様々な施策・事業を進めていくに当たりまして、特に留意すべき、あるいは意識すべき視点でありますとか、あるいは盛り込む動機、要素等についていろいろと率直なご意見を賜りまして、今後の市の事業の推進に生かしていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

一応時間が15時までと、約1時間半という限られた時間でございます。お手元にありますように大量の資料でございます。丁寧にやっておりますと大変な時間を要すると思っておりますので、進行役の私としてはできるだけ時間内に済むように努めてまいりますけれども、委員の皆様にも何とぞご協力のほどよろしくお願いしたいと思っております。それでは、よろしくお願いたします。

○事務局（草野） ありがとうございます。

それでは、ここで本日の委員の皆様の出席状況でございますが、5名の委員の方がご都合によりご欠席でございます。なお、基本政策等に関する審議会設置条例第6条第2項に規定する委員過半数のご出席をいただいておりますので、当審議会は成立しております。

それでは、本審議会設置条例第6条第1項により会長が議長となることになっておりますので、これからの議事運営につきましては越宗会長をお願いいたします。

○越宗会長 それでは、お手元の会議次第に沿って議事を進めてまいりたいと思っております。着席して進めさせていただきます。まず、議事に入ります前に、傍聴の取り扱いについて、事務局のほうから説明をお願いいたします。

○事務局（草野） 今のところ傍聴希望者はいらっしゃいませんが、特に支障がなければ本審議会を公開といたしまして、この後、傍聴希望者が来られた場合は傍聴の許可をいただければと思いますが、いかがでございましょうか。

○越宗会長 委員の皆さんいかがでしょうか。本日の審議につきましては特に支障になる事由はないと思いますので、公開にしてはいかがかと思いますが、よろしゅうございましょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○越宗会長 ありがとうございます。それでは、本日の会議、今後もし傍聴希望者がいらっしゃいましたら、傍聴を許可したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

4 協議事項（1）岡山市第六次総合計画 前期中期計画にかかる平成29年度の取組状況について

○越宗会長 では、議事を進めたいと思います。まず、協議事項に入ります。平成29年度の取組状況について協議をしたいと思います。まず、事務局から資料の説明をお願いしたいと思います。

○事務局（安東） それでは、お手元の資料により、岡山市第六次総合計画・前期中期計画にかかる平成29年度の取組状況についてご説明します。すいませんが、座って説明をさせていただきます。

昨年3月に策定した、岡山市第六次総合計画・前期中期計画では、都市づくりの基本目標である「未来へ躍動する 桃太郎のまち岡山」の実現に向けて計画を着実に推進するため、政策ごとに設定した成果指標の達成状況や、各施策のもとで取り組む主な事務事業の進捗状況等について、毎年度評価を行い、公表することとしています。このたび、平成29年度の取組状況について取りまとめましたので、報告させていただきます。

お手元の資料1「岡山市第6次総合計画 前期中期計画にかかる平成29年度の取組状況（概要）」をご覧ください。これは、後程ご説明させていただきます資料2の概略をまとめたものです。それでは、概要について、ご説明します。

まず、評価の基準についてですが、成果指標、事務事業とも、状況を判断するため、

それぞれ区分を設けて評価しております。成果指標については、「上昇・改善」、「横ばい」、「低下・悪化」の3区分で、事務事業については、「順調」、「概ね順調」、「やや遅れ」、「遅れ」の4区分で評価しております。

左側の成果指標の欄をご覧ください。成果指標は全部で82ございます。そのうち、評価対象外となる9指標を除いた73の指標について、約8割にあたる57の指標が「上昇・改善」しております。前回に比べ、21指標増えております。なお、評価対象外となった9つの指標は、この時期までに判明していないものになります。

「上昇・改善」した主な指標としては、企業立地件数が基準値に比べ22件増えて30件、保育所等の待機児童数が178人減少して551人などとなっております。一方、15の指標が「低下・悪化」となっており、その中で、転入超過数の減少があります。

資料の4をご覧ください。1枚目ですが、平成25年から29年までの過去5年間と平成21年から25年までの5年間の社会増減の累計を比較した資料です。中四国地方からは転入超過となっているものの、東京圏への転出超過数が、東日本大震災の影響があったとはいえ、最近の5年で約1.5倍に増えており、より一極集中が進んでいるのがわかります。2枚目をご覧ください。左側の絵は東日本大震災直後の状況ですが、当時は、現在の状況と比べまったく逆で、東京圏からも転入超過となっていたことがわかります。今後、継続的に要因を精査しながら、東京圏への一極集中に対して、こういった対策が有効か検討してまいりたいと考えております。

なお、平成29年度実績の時点で、すでに目標値を上回った指標、あるいは今後確実に目標値を上回ると思われる指標のうち、今後の見通しなども踏まえて検討を行い、企業立地件数など6つの指標について目標値の見直しを行いました。

次に、右側の主な事務事業の欄をご覧ください。

各施策のもとで取り組む326の事務事業のうち、9割を超える318の事業が「順調」または「概ね順調」で進捗しております。前回に比べ19事業増えております。

「順調」であった主なものとしましては、先ほどの上昇・改善した指標と関連しますが、「企業立地推進事業」、また、吉備線LRT化に向けて総社市、JRと合意した「鉄道の利用環境改善」、予定していた学校施設の耐震化が完了した「学校耐震改修整備事業」などがあげられます。

一方で、8つの事務事業が当初の見込みよりも「やや遅れ」の進捗となりました。主なものとしては、「里親委託等家庭養護の推進」などがあげられます。これらの事業については、課題を検証し、事業手法の改善などによって事業の推進を図っていきたいと考え

ております。

それでは、資料2「桃太郎のまちづくりレポート2017」をご覧ください。

1頁には、成果指標の評価基準、事業の進捗状況の評価基準、2頁から8頁までは、各政策における成果指標についてまとめております。続きまして、各政策の事務事業の進捗状況は9頁から19頁にまとめております。

次に、分野別計画の取組実績について、ご説明します。

時間の都合上、全てをご説明することができませんので、将来都市像ごとに資料1の概要に記載しているものを中心にご説明させていただきます。

将来都市像Ⅰ 中四国をリードし、活力と創造性あふれる「経済・交流都市」は、政策1から政策10までで、23頁から85頁までとなります。

23頁をご覧ください。政策1「新たな雇用と活力を生む戦略的な産業振興」ですが、成果指標の状況として概要でご説明した「企業立地・再投資件数」の目標値として平成28年度～32年度までの合計値としておりますが、平成29年度までに30件の実績があり、「上昇・改善」となりました。補助金制度の新設や効果的な企業誘致活動に加え岡山市の立地環境の優位性を企業に周知できたことなどにより上昇したものと分析しております。なお、これまでの実績や今後の見込みなどを検討した結果、目標値を33件から75件へ見直すこととしております。関連する総合評価としては、24頁の施策③「拠点性をいかした企業立地の推進」、事務事業では、27頁の企業立地推進事業、28頁の空港南産業団地整備事業となり、ともに順調に進捗しております。

次に、将来都市像Ⅱ 誰もがあこがれる充実の「子育て・教育都市」は、政策11から政策19で、87頁から141頁までとなります。

このうち、87頁をご覧ください。政策11「安心して子どもを生み育てることができる環境づくり」ですが、成果指標の「保育所等の待機児童数」について、保育の受け皿の確保が進んだことや、入園申込みの増加が落ち着いてきたことに加え、保育コンシェルジュによる寄り添う支援に力を入れた結果、基準値に比べ、178人減少しております。総合評価としては、施策①「仕事と子育ての両立のための基盤整備」に記載しているとおりであります。関連する事務事業として、88頁の「私立保育所の施設整備」など8事業は「概ね順調」に進捗しており、引き続き待機児童「0（ゼロ）」を目標とした事業を推進してまいります。

次に、将来都市像Ⅲ 全国に誇る、傑出した安心を築く「健康福祉・環境都市」は、政策20から政策28まで、143頁から186頁までとなります。

このうち、165頁をご覧ください。

政策24「地域防災力の強化と消防救急体制の充実」の総合評価では、施策①「地域防災力の強化」の欄で、自主防災会の結成団体数が低調であり、市民の意識高揚を図る必要がある、と評価しており、関連事業の166頁の「自主防災会育成事業」の進捗状況は「やや遅れ」としております。また、165頁の総合評価に戻っていただき、施策②「消防救急体制の充実強化」の欄の二行目からですが、住宅用火災警報器の設置推進については、設置率、適合率ともに改善したものの、目標の達成には至っておらず、さらに市民に届く積極的な広報展開を検討していく必要がある、と評価しております。関連事業としては、168頁の「住宅用火災警報器の設置推進」ですが、進捗状況は「やや遅れ」としております。

次に、「都市経営」は、政策29から政策30まで、187頁から198頁となります。

187頁をご覧ください。政策29「分権・人口減少社会を踏まえた行政の推進」の成果指標には、2年に1回実施する市民意識調査のうち、「岡山市に住み続けたいと考える市民の割合」を設定しておりますが、基準値に比べわずかですが上昇の傾向となっております。引き続き、若者の定着や地域への愛着の向上に向け、地方創生、広域連携等の取組を全庁的に推進してまいりたいと考えております。

次に区別計画の取組実績についてご説明します。

区別計画は、区づくりの将来目標の実現に向けて、区で重点的に推進すべき施策や市民生活に密着した施策展開の方向性を定め、そのもとで実施した平成29年度の取組状況について、まとめております。なお、区別計画では、その多くが分野別計画に基づく事務事業と重複していることから、各区の事務事業については、施策展開の方向性ごとの評価や関連する事業について、評価しております。

201頁をお開きください。北区の区づくりの将来目標は「自然と共生し、歴史と文化が薫る賑わいと交流のまち 北区」で201頁から215頁までです。総括としては、7つの施策展開の方向性ごとに総合評価を行っております。方向性4では、岡山城の烏城灯源郷と岡山後楽園の幻想庭園との同時開催をはじめとするイベントの開催などにより、外国人をはじめとする観光客の増加につながり、また、「岡山城天守閣等のあり方検討調査」を踏まえて、ハード・ソフト両面からの見直しを行うための実証実験事業を実施するなど、観光施設の魅力アップを図っております。202頁以降、具体的な事務事業の実績等を掲載しております。

次に、217頁をお開きください。中区の区づくりの将来目標は「ふれあいと活気にあふれ、快適で住む喜びに満ちたまち 中区」で217頁から225頁までです。総括としては、5つの施策展開の方向性ごとに総合評価を行っております。例えば、方向性2では、区民参加のホタル調査や保護団体等と連携してのアユモドキの保護・啓発活動、「身近な生きものの里」として認定している地域の支援、操山公園里山センターでの講習会・講座等を実施しました。218頁以降、具体的な事務事業の実績等を掲載しております。

227頁をお開きください。東区の区づくりの将来目標は「いつまでも住み続けたい歴史が息づき愛着の持てるまち 東区」で227頁から236頁までです。総括として、6つの施策展開の方向性ごとに総合評価を行っております。方向性4では、主要地方道岡山赤穂線における鉄道交差部の工事に着手したほか、交通不便地域における移動手段の確保について、新たに地域住民が検討組織を設置し検討を開始しました。228頁以降、具体的な事務事業の実績等を掲載しております。

最後に、237頁をお開きください。南区の区づくりの将来目標は「人・まち・自然が調和し、笑顔輝く実りのふるさと 南区」で237頁から245頁までです。総括としては、6つの施策展開の方向性ごとに総合評価を行っております。方向性1では、市民の浸水対策への意識啓発を図る目的で、芳泉小学校、南輝小学校に雨水貯留タンクを設置するとともに、市民の雨水貯留タンクの設置に対しても、40件の助成を行いました。238頁以降、具体的な事務事業の実績等を掲載しております。

以上、時間の都合上、簡単な説明となりましたが、今回の取組状況につきましては、成果指標では、約8割の指標が「上昇・改善」し、その数も前回に比べ21指標増えております。事務事業では、9割超の事業が「順調」あるいは「概ね順調」であり、前回に比べ19事業増えていることから、前期中期計画に掲げる目標の達成に向けて概ね順調に進捗しているものと考えております。

今後は、今回の評価結果を踏まえた上で、各事務事業の方向性や手法等について検討・見直しを行い、来年度以降の予算に反映していきたいと考えております。

以上で、平成29年度の取組状況についての説明を終わります。

○越宗会長 ただいま説明ありましたように、平成29年度の取組実績であります。これからその内容につきまして、委員の皆さんにご意見、あるいは質問をいただこうと思っております。今の説明にあるように分野別計画と、そして区別計画があるわけですが、これからの議事もそれぞれの計画に分けて進行をしていきたいというふうに思いま

す。

それでは、まず分野別計画であります。まず3つの将来都市像ごとに区切って議事を進行したいと思いますので、よろしく願いいたします。初めに「経済・交流都市」の実現に向けた政策の1から10までございます。これにつきましてのご意見を皆さんからいただきたいと思っております。いかがでしょうか。産業経済、あるいは都市計画、交通、文化、スポーツ、地域振興等々ございますけれども、それじゃあまず産業経済という分野でお願いしたいと思いますけれども、加藤委員さん、口火を切っていただけますか。

○加藤委員 加藤です。座らせていただきます。

計画がほぼ順調に進んでおられるということで、まず最初の年としては非常にいい結果が出ているのではないかなと感じております。この中で上昇・改善した主な指標という中で、企業立地・再投資件数というのが計画以上に伸びているというこの事実は、非常に頼もしいことだなというふうに感じております。企業立地とか、岡山市が企業の運営をする上での優位性がこういう数字に出てきているということがすばらしいことだと思っております。ただ本当に、先ほどの水害とか、今まで余り認識がなかなかされていなかった状況が最近出てきておまして、昔と変わってはないんだろうと思うんですが、ただそういう認識等がされたために岡山市以外の県から見て、企業をやっていこうという点について、ブレーキがかからなければいいかなというふうに感じております。その点は、広報や説明やで解決し、この流れをさらに推進していただければなというふうに感じております。

○越宗会長 ありがとうございます。杉山委員さん、いかがですか。

○杉山委員 冒頭、大森市長さんからお話があったように、岡山って、私どもも安易に自然災害が少ないということを鵜呑みにしていたと反省しています。今振り返って、第6次総合計画をまとめたときに、安心・安全なまちであるという表現を入れてしまったというのは、ある意味では天に対して不遜であったなというふうに感じております。例えば23ページにあるような安心・安全とか、自然災害が少ないなどというふうな表現を、確かに活断層はないといわれていますが、なかなか難しいところがあるのではと思います。とはいいいながら、一旦策定したものを変えるということにはできないので、私たちの意識の中で、あくまで自然災害というのは、ひょっとすると厳しいものがこれからも来るかもしれないので、絶えず我々は努力をし続けなければいけないと、そういう謙虚な考え方を持つ

べきなんだろうというふうに強く思いました。

○越宗会長 ありがとうございます。梶谷さん、いかがですか。

○梶谷委員 産業面では大きな成果がかなり出てきているのではないのかなというふうに思います。それからこの前も桃太郎伝説が日本遺産に認定されたりということで、桃太郎のまちというのが、かなり岡山の地元だけでなく全国にもアピールがあって、この桃太郎のまちというのを入れてよかったなというふうに思いますが、一方で桃太郎伝説、いろんなところにもありますんで、岡山ならではの桃太郎伝説を改めて我々の時代がつくっていかなければいけないんだろうということも強く思ったところです。

産業政策上はおおむね上昇なんですけども、1点気になるのが、政策7のところの美しい都市景観ですとか公園緑地の整備、この辺がなかなか進んでいない、低下をしてるということ。それから最後の政策10のスポーツの実施率が上がってないというようなこともありまして、それから転入超過者数が減ってるということからいうと、改めて産業のベースとなる、そこに暮らしてる人々が豊かな空間の中で暮らせるようにする政策にさらに力を入れていく必要があるんだろうなというふうに思います。渋滞箇所等もまだ改善してないという、かなり着実にそこが進んでると思いますけれども、スピード感とすればより積極的な後押しが要るんだろうというふうに感じております。

それから、この成果指標でいくとかなり上がってて、事務事業についても9割がおおむね順調という評価なんですけれども、私が見て、この「概ね順調」と「順調」の差がどこでどう差が出ているのか、少しわかりにくい部分もあったような気がします。我々の素人感覚からすると、これ、順調よりは概ね順調ぐらいじゃないのかなとか、逆にこれは概ね順調になってるけども順調でもいいのではないのかなと思ったところが若干ありました。土地利用の適正誘導等について言うと、順調までいくのかどうなのかなと思ったりしたところはございましたんで、逆に概ね順調と順調のその辺の説明がもう少しはっきり出るとよりわかりやすいのかなと。どうしても順調になるとこれでいいやと思いがちなんですけれども、概ね順調ぐらいだと、順調だけ少し勢い入れなきゃいけないところがあるというようなこともあろうかと思しますので。それと、逆に言うと、事務事業のほうが9割ぐらい順調なんだけど、成果指標のほうでいうと8割ということは、順調なんだけど成果はそこまで至ってないということも言えるのかなと思いますんで、概ね順調のところは成果が余り出てないんでそうだとと言えるのかもわかりませんが、その辺をもう少し精査を

していただけるとわかりやすいのではないのかなと感じました。

○越宗会長 産業とか経済という部分で、何かほかの委員さん、ご意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○越宗会長 それでは、都市計画とか交通分野につきまして、ご意見をいただきたいというふうに思いますが。阿部委員さん。

○阿部宏史委員 失礼します。お話を伺ってまして、全体的に指標、8割方順調に進んでいるということで、非常によくやられてるんじゃないかなというふうに思います。私は、都市とか交通の関係でいろいろと計画等に関与させていただいていますが、最近になって、特にいろんなことが進みつつあるのかなという気がします。ある意味、進んでる反面、今が正念場かなという気がしますので、またしっかりと取り組んでいただければと思っています。

先ほどご説明を受けた中で、人口の社会増減のところはやはり少し気になりまして、私、大学におりますので、岡山市を中心とする人口の動きを見ますと、まず大学に入ってくる時に県外から学生がやってきて、次に卒業する時に東京のほうにみんな流れていくというような、ワンパターンのような感じになっておりまして、特に最近は景気が良くて求人が多いということもあって、もうどんどんどんどん若い人たちが東京のほうに流れていくところでもあります。で、先ほど人口の社会増減で、転入超過数ということでトータルで示していただいたんですけど、やはり年齢別とか、それから地域間の動きとか、もう少し細かい分析が必要じゃないかなという気がします。やはりこの人口の社会増減というのは、地域の活力の一番のバロメーターとなり得る指標かなと思いますので、是非早急に分析をしていただいて、早目早目の対策をとっていくということが必要なんじゃないかなと思います。

それから、先ほどから災害の話が出ておりますけども、岡山が気候が温暖で安全な地域というイメージがあって、移住先として選ばれるというのがありましたけれども、今回の大きな災害というのは、非常に大きなダメージになったんじゃないかなと思いますので、そのイメージの回復に是非早急に取り組んでいただきたいと思っています。

それから、成果指標ということで、改善された、あるいは落下したということを示していただいたんですけども、これは市民の意識との関係で、どういうふうな関係になってるか、つまり改善した指標について市民の満足度も上がっているかどうか、そういったところも是非分析をしていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○越宗会長 都市計画、交通のことで何かほかにご意見ございますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○越宗会長 それでは、文化、スポーツという分野でお願いしたいと思いますが、片山委員さん。

○片山委員 文化、スポーツというよりは、多文化共生社会のまちづくりの推進とか、日本語指導講師派遣事業とか、見ておまして、これは先になるんでしょうか。今のところに入りますでしょうか。今のところに入ってなくてもっと先のことでしたら。

○越宗会長 どうぞ。

○片山委員 いいですか、先に。多文化共生のまちづくりで、国際交流、国際化について満足している市民の割合を見ますと、傾向としては下がっている。11.9が基準値で、実績値が9.4、目標値は13です。それから、岡山市に住み続けたい外国人市民の割合というのも、基準値の83.1から72.9まで下がってきています。日本人の場合は、先ほどもありましたように住み続けたい市民の割合というのが上がっているんですが、外国人の場合は下がってきているということで、これはどういうところに問題があるのかなと。多文化共生社会の環境づくりには随分努めていて、外国人の市民の声をよく聞いているはずですけども、実際問題として下がっているというのはどういうことかを考える必要があると思います。

先ほどもありました防災についてですが、多国籍防災会議ということで、各地域の公民館でそういう会合を持って、多国籍の外国人の方も日本人と一緒に防災を考えたり、実際にどう逃げるかというようなこともやっています。このたびの災害のときに、携帯に緊

急の速報が出ましたけれども、実際に出たものを読むと、漢字ばかりで、実際外国人には読めないということです。私どもの学生は先生のほうに画面を送ってきて、これはどういう意味ですかと尋ねてきましたので、それはこういうことで逃げてください、どこどこに行ってくださいと言ったんですけれども、今度はその場所がわからないということなんです、その点に関しては、今どきのことですので、スマホを使ってその場所はすぐ自分たちで探せたようです。訓練はしているんですが、いざそれが発令された時に理解できないというようなことが、今回の場合、随分あったようで、その辺を考えなければいけないのではないかと考えております。

それから、先のほうになってしまうのかもしれないんですが、日本語の指導講師の派遣事業ということで、これも今後の課題・方向性として、帰国外国人児童・生徒の出身国が多様化しているのです、その生徒の母国語に対応できる日本語支援員の人材の確保が必要であると書かれているんですが、ベトナム語、英語、中国語ぐらいはいいんですけれども、その他、東南アジアの国の言葉を話して、それで教える人材というのは、まず確保するのは難しい、いないんじゃないかなという気がして、こういう形で確保するのは難しいのではないかと思います。そのかわりに、易しい日本語という形でそれに対応していくのがより現実的ではないかと思います。たまたまですが、国際課のほうからご連絡がありまして、易しい日本語についての研修をしたいので、先生と相談させてほしいと言われまして、市のほうでもそういった方向で前向きに考えていらっしゃるんだなということがわかってよかったなと思っております。

○越宗会長 ありがとうございます。梶谷委員さん、スポーツ振興ですね。これについて。

○梶谷委員 スポーツ振興ですけど、本当に、特にいろんなナショナルチームの誘致ですとか、インバウンドというか海外チームの誘致を非常に頑張っているというふうに思いますし、また地域スポーツコミッションのほうもご協力によりまして立ち上がったということで、ようやく土壌ができつつある。これからあと、そこにより市民の皆様方に間に広げていって、みんなでスポーツを楽しみながら、これを見ると、最終的には我々がやってないというところが大きな課題として出てますので、まずは見る、支えるところから、できることをやろうというところへどう広げていくか、そういった意味では、トップアスリーの皆様方に素晴らしい試合を見せていただくと同時に、より多くの市民の

方々にこの楽しさだとか競技のやり方とかそういうものを伝えていただく、そんなことにも今後進んでいけばいいなと思います。よろしく願いいたします。

○越宗会長 スポーツ振興で私も一言付け加えさせていただきたいんですけども、この事業の中にも、ファジアーノ岡山であるとか、岡山シーガルズといった、いろんな事業に取り組んでおられます。今や、こういうスポーツはプロスポーツでありますけども、本当に市民の一体感、あるいは活力を与えてくれる大きな存在になっているであろうというふうに思います。それに加えて、この総合計画の策定段階では無かった分野、卓球、あるいはバスケットボールにも新しくチームが誕生してきております。いずれにしても、多様なスポーツで全国のチームと競う中で、やっぱり岡山市民の愛郷心といいますか、プライド、誇りというものを醸成することにもつながりますし、またこれは岡山市に住みたい、住み続けたいという、そういう意味づけにも寄与すると思いますので、こうしたスポーツの支援体制をさらに強化していただかなければいけないんじゃないかと思います。余り生臭いことはちょっと話しませんが、そういう支援体制をさらに強化してあげようと、そんなふうには私も思っております。

それから、地域振興で阿部委員さん、どうぞ。

○阿部典子委員 特に政策8のところと、それからインバウンドという話も出ておりますけれども、今回被災したいろんな地域の方々とお話をしていく中で、日常を取り戻したい、地域の自分たちの宝をもう一度見つめたいというような話も、やっぱりお話の中で出てくるんです。総合計画もこの桃太郎のまちづくりということで話を進めているということと、それからタイミングとして日本遺産の認定というすごく素敵なニュースもありますので、やっぱりこの日常を取り戻す、岡山として復興を進めていく、それと外から来る人にも応援してもらえるような地域づくりということと、それから地域の人がもう一度誇りを取り戻すという、そういった観点から、この歴史・文化ゾーンの来訪者数であるとか、この政策8の取組が進むといいなというふうに見させていただきました。

○越宗会長 ありがとうございます。「経済・交流都市」の実現に向けての政策1から10につきまして、ご意見を賜りましたが、何かほかにここに付け加えたいというようなことがございましたらどうぞ遠慮なく発言をしていただきたいと思います。よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○越宗会長 それでは、先ほど阿部宏史委員さんから発言がございました、この岡山市の社会増減の状況について資料がございますけども、東京一極集中があらわれている数字だと思います。この岡山市の人口増減について、あるいはこの状況をどういうふうにすればいいのかというようなことでご意見をお伺いしたいと思います、いかがですか。

塩見委員さん、どうぞ。

○塩見委員 先日、商工会議所の皆さんと会合を持ったんですけど、その時に、岡山の企業へ東京へ出ていった大学生は絶対帰ってこないというお話が出まして、その時に、中学生ぐらいまでの間に岡山へ愛着を持つというふうな教育とか、それから地域の関わりが非常に大切なんじゃないかというふうな話が出ましたので、そういうことも経済と合わせて、岡山への愛着を高めていくということが必要かなというお話が出ておりました。私もそうだなというふうに思いました。

○越宗会長 ほかには何かありますか。杉山委員どうぞ。

○杉山委員 阿部先生と同様に教育界に関わっているので、一言申し上げます。実は私立大学では大体40%以上の大学が定員割れをしています。そのために、政府は大学の定員管理をすごく厳しくしてきています。特に東京圏、それから大阪圏のマンモス大学の私立大学は何千人ととるんですが、それを厳密に1.1倍以下にしろというような指導をしています。定員充足をしてない大学、特に地方に多いのですが、40%から36%に落ちてきています。東京のマンモス大学、関西のマンモス大学が実質的に入学者を減らすことによって、地域にすごいメリットがあります。若干政治的な理由があって、岡山だけは依然として減っています。それは多分、別の要因があるんだろうと思います。広島あたりはかなり増えています。小さな大学はそれによって潤う。したがって、政府がそういう政策を取り、東京にはもうこれ以上入れてはいけない、あるいは、地方出身者数とか、何かの指標をつくって、それを満たさない限り入れてはいけないというふうにすると、多分、学生はもっと地域に来るあるいは留まると思うんですけど、なかなか実はそういうことは難しいですね。じゃあ何ができるのでしょうか。さっき阿部先生もおっしゃられてましたけど、

これだけの規模の自然災害が起きると、多分この先10年ぐらい、ボディーブローのように効いてくると思います。だから、結局僕たちにできることは何かというと、ここにあるような施策を一つ一つ積み重ねていくしかないんだろうと思います。そして、知恵を出して、もっと魅力があるまちであるということをしてPRするという、例えば岡山出身の磯田先生みたいなすばらしい先生がいらっしゃるんで、日本遺産に認定された桃太郎伝説のまちについての本を書いていただくとか、あるいは講演会をやっていただくとかを至急実施したらどうでしょうか。私も不勉強で知らなかったんですけど、楯築古墳なんていうのは、実際は大型古墳の原点なのだそうですね。テレビでしか拝見していませんけれども、磯田先生はそれをすごくPRされていて、全ての原点は吉備であったと話されていました。桃太郎伝説に結びつくとか、是非そういうことをしっかり企画をしていただいて全国的にPRしていくことが大切だと思います。それが梶谷先生がおっしゃられたように、スポーツで、例えばファジアーノがJ1リーグに入っていくようなことがあると、岡山の元気度や岡山の知名度がアップするのだと思います。とにかくそういうことを、私たち市民もひっくるめて努力していくということしか、多分解決策はないんだろうというふうに思っています。

○越宗会長 ありがとうございます。私も、おっしゃるように都市の総合力を高めていくと、そういうことが首都圏や近畿圏から人を引きつけるんだと、それでなければ難しいんじゃないかなと。いろんな施策はここにもう随分盛り込まれております。U I Jターンを推進していくとか、あるいは利便性を高めるための、今も取り組まれている公共交通を充実していく、スポーツも文化もそうですけども、そういうふうにして、なお一層全国に岡山の知名度を広げていくと、高めていくということが、やっぱり人を惹きつけるということにつながっていくんだろうと思います。

それから、災害も皆様、言及されていらっしゃるんですけども、確かに今まで震災が少なくて安全な岡山というものを売りにしてきたわけでありまして、これは今回の今回の教訓でもう一度、やっぱり安全な地域づくりというものに力を入れていくと。こういうことに地道に取り組んでいくことが大事なんじゃないかなというような思いがいたします。

○梶谷委員 いいですか。

○越宗会長 どうぞ。

○梶谷委員 岡山へいかに人を残すかというか、来てもらうかということなんですけど、やっぱり一番は、岡山で生まれた子が岡山で将来にわたって岡山が好きで岡山に暮らしたいと思ってもらえるかどうかということであると思うんです。私、いろんなところでいつも話をするんですが、ある高校生から聞いた言葉がいつまでも忘れられないのは、その高校生は、私にとって一番身近なところは東京ですと言っていました。次に身近なのは世界ですと。自分が暮らしてる地元が一番身近じゃないですと言われたんです。ばかなと思っただんですが、今の学校と家庭、塾の往復だけをやってると、実は高校生に入ってくる情報というのは、ほとんどが東京発の情報のほうが圧倒的に多いんだろうと思います。自分が暮らしてる地域の情報というのよりは、彼らのところには、恐らくマスコミを通じてもなかなか入らないでしょうし、それからSNSでいうと友達同士は入ったとしても、地域でどんなことがあってどんな人がいるみたいな話は余り入ってこないだろうと。あえて言えば、ケーブルテレビをじっくり見てれば多少入るかなというぐらいで。恐らくネット検索しても、関心があるところを見ると、エンタメとかいろんなものを見てもほとんどが東京発で、おいしい店の情報なんか恐らく東京発の情報。例えばネットで調べて食事に行くという、全国ネットのところがすぐ出てくるようなことからすると、改めて、本当に彼らにとって身近なところというのはまさに東京になってる。小学校ぐらいまではまだ地域の祭りに出ていったりということで、五感で地域とつながるんですが、中学、高校はそこがごそっと抜けて、で東京へ行ってしまってもう戻ってこないというようなことが起ってるような感じがいたしまして、いかに中学生、高校生に地域の情報をしっかりと提供していくか、しかも、それはビジュアルだけではなくて、地域の人と関わったりする中で、五感でそこにに関わりながら、自分たちも何らかの役に立って変えていくことができるんだと、自分たちが関わることによってこの地域は良くなるんだというような原体験をしっかりと積ませていく、そんなところが非常に重要なのではないのかなと。そういった中に、我々地域の中小企業というところが関わりながら、そこでその地域を支えているモデルをしっかりと見せていく、そういった暮らしというのは魅力的だなというふうに思ってもらおうということが大事であって、そこが抜けると、幾ら岡山魅力的ですと言っても、東京へ行った人が岡山へ来るかというとなかなか来ない。やっぱり岡山で育った人が、岡山魅力的なんだというところをしっかりと、小、中、高、大学の縦軸の中で実感できるような環境づくりを、恐らく産業界と教育界が一緒になりながらつくっていったら、原体験を

しっかりと、この地域に誇りを持って、地域で生きていくという覚悟を決めた人をどれだけつくっていくかということが、恐らくそういう人がいるところというのは、よその人にとっても魅力的だから、あそこへ行ってみようということになるんだろうと思うんで、そこをいかにしっかりとやっていくかということが大きな課題だろうというふうに思います。ちょうど教育課程もここで新学習指導要領に大きく変わりますんで、改めて学校と地域がどう手を取り合いながらやっていけるか、その仕組みづくりを是非お願いしたい。そういった意味では、岡山はESDでもやっておりますんで、あの辺をもっともっと推進していくことが大事かなと。

○越宗会長 杉山委員どうぞ。

○杉山委員 実は金沢21世紀美術館をつくられて、今、兵庫県立美術館の館長をされている蓑先生を本学は特任教授でお願いしていて、毎年講義にお越しいただいています。美術もそうなんですけど、幼児体験が一番重要です。スリープオーバーって言って、例えばイギリスのブリティッシュミュージアムなんかは夜寝袋で泊まるというふうな経験を幼児のときにさせています。年とってから、やれモネだルノワールだと言ったって、もう遅過ぎるんですよ。そういう意味では、小学校の低学年、あるいは幼稚園のときにどういう体験を与えるのかということが大切で、そういう観点からすると、例えばうらじゃ一つにしても子供用のうらじゃをつくるのが大切です。それを意図的に市が主導して、子供のうらじゃ体験をさせて、そういう幼児の時の体験をさせない限り、岡山が好きになることは少なくなるだろうと思います。イギリスは、音楽家で素晴らしい方は余り出ないんですけど、音楽を本当に理解できる人は世界で一番多いと彼らは言っています。それがなぜかという、やはり小さいときから良い音楽を聞かせています。ロンドンの夏のプロムナードコンサートみたいなのが7月から9月まであって、普通オペラやったりすると非常にチケットが高いのですが、スタンディング、立って観劇をする。そうすると、それこそ1,000円くらいで観れる。学生や子供たちはそういうところに行って聞くということをやっています。岡フィルもこれから強力に支援されるようなので、意図的に全てのイベントは、烏城桃源郷もそうですし幻想庭園もそうなんですけど、一体子供たちをここに絡ませるためにはどうしたらいいのかという視点を、全ての施策について考えるということを是非意図的にやっていただけるといいんじゃないかなと思います。

○越宗会長 片山委員さん。

○片山委員 政府の方針で、外国人の働く人たちのビザの幅を広げて、たくさんの外国人が日本に入ってくると思っていますが、岡山では外国人人口は増えているのでしょうか。政府の方針でかなりの人数を増やすと言ってますので、それは大きな都市ばかりでなく、岡山でもきっと増えてくると思うんです。人口増は、日本人だけではなく外国人が入ってくるということで増えてくるんじゃないかと思います。それで、生活する外国人、また働く外国人たちにどう対応していくかというのはまた別の問題で、受け入れについてはこれからいろいろ考えて対応しなければならないと思います。

○越宗会長 片山さんの今質問は、外国人が増えているか。

○片山委員 はい、市民として。

○大森市長 もう完全に増えてますよ。岡山市が何とか人口減にならずにいつてるのも外国人のおかげでして、外国人の在住はもう、すごい勢いで増えてます。だから、片山さんのおっしゃるように、外国人への接し方、そして我々の対応、ちょっと考えていかなければならないことがあるのはもうそのとおりであります。

○越宗会長 ありがとうございます。

先ほど杉山委員さんから、幼児教育というか、幼児体験というのが大事なんだという話がありましたけど、じゃあ、次の将来都市像Ⅱの子育て・教育都市の実現に向けた政策、11から19までにつきまして意見を伺いたいと思います。

清板委員さん、お待たせしました。どうぞ。

○清板委員 まず、政策11に、男性も女性も仕事と家庭を両立できるのがよいと考える市民の割合が冒頭に示されています。下の施策②のところにも、男女におけるワーク・ライフ・バランスの推進ということで、企業を対象としたワーク・ライフ・バランス啓発シンポジウムや管理職向けセミナーなど、男女ともに仕事と生活を両立できる環境づくりに向けた事業は概ね順調であるというふうに書かれています。この概ね順調というのは何が順調なのだろうかというふうに思いました。そういう啓発活動が順調なのか、啓発の結果

として仕事や人々の生活を豊かにするとかにつながっていくのか、どうなのだろうかということをおもいました。その上にあります、男性も女性も両立できると、そういうふうを考えている市民の割合が高くなっているということは、これは精神風土がそのようにだんだんできてきているとか、通念とか、そういうものがようになってきているということをお単に示しているだけであるとすると、それは本当に子供を育てたり、あるいは仕事をしようとする女性にとって有効なものを生み出しているとは言えないのではないかなという気がします。

私はこの4月から産婦人科のカウンセラーに転身したんですけれども、そこでこれから赤ちゃんを産もうとしている若い人、あるいは産んでもうすぐ退院しようとしている人たちと日々カウンセリングでやっています。大抵その中で、お子さんできたら、あるいは退院したら仕事はどういうふうにする予定なんですか？というのを聞きます。ほぼ90%ぐらいの方が、感覚的ですが仕事を持って赤ちゃんを産んでいる。だから、良い感じがするんですが、そうしますと、一番直観的に感じるのは、育休を少ししかと取らないなという感じがします。なぜそんなに短くしか取らないの？というふうなことを聞きますと、1つは、例えば9月に産むと、10、11、12、1、2、3、4の7カ月で、4月にはもう復帰しようと思う。7カ月しか育休を取らないので、この子とは7カ月しか一緒にいないんだという返事です。どうして？と聞くと、それ以上延ばすと保育所に入れなくなる可能性が非常に高いから、そここのところで有利にするためにそのように考えてると。0歳から1歳半までは、赤ちゃんの基本的な愛着ができて、自己肯定感ができて、それこそ自分のことにしても、他者のことを考えるにしても、とても大切なものが母子相互関係の中でできる時期ですから、そんなもったいない、もう一年育休延ばして1年8カ月にしたらどうなんですか？再来年の4月にしたらどうなんですか？みたいなことを言っても、その辺の保育所を保障してくれる確約がないと思うから、今から4月に入れるように申し込んでおいて、何とか確実に保育園をキープしたいというようなことをおっしゃいます。

それからもう一つ、1年以上は取らないとか1年以下に抑えたいとおっしゃる方が、やっぱり帰ったときにグループに冷たい目で見られる可能性があるというふうにお言われます。それは、私が育休を取ったためにもう一人の人がしんどい思いをするから、言わず語らず、やっぱりあなたのために迷惑を受けたよと、そういう感覚を感じるのだからやっぱり短か目にしておくというようにお言われる方が多いです。しかし、中には、もうそういうように育休を取っていて、産後健診に来られる方の中には、私のいないところに派遣社員を1人雇ってくれているので、その派遣さんが10月で終わるんだけど、さらに延

ばしたほうがいいか、つまりあなたは10月ごろに帰ってこれるか、あるいは、もう少し育休を取りたいんだったら派遣さんをもう少し延ばすから、なのであなたの意思を聞かせてほしいというふうに言ってくれる会社にいる方にも出会います。これが、まさにワーク・ライフ・バランスのセミナーなどの成果であり、概ね順調であると言えるならば、もしそういったふうな発想をする、あるいは動き方をする人事担当者、あるいは企業の経営者が増えているとするならば、それは順調に行われているというふうに言えるのかもしれないと思います。そこまでちゃんといけるように、企業、あるいは人事をつかさどる人がそこまでちゃんと考えてやれるんだとか、やるスタイルはこういう方法があるんだ、事例があるんだというようなことを、そこを押さえたセミナーをきちんとしなくてはいけないのではないかなと思います。

それから、女が赤ちゃんを産んだりして仕事を休むと周りの人に迷惑がかかるというふうな、実際に仕事がしんどくなるということもあると思うんですが、女性同士の中にも必ずしも応援ができない感覚みたいなものがあるのは、やはり背景にある男性も女性もともに一緒に力を合わせながら子供を育てるんだ、子供を持って仕事をする人は、やはり仕事の仕方、あるいは仕事の評価の仕方、あるいは公休の処理の仕方、それを柔軟に対応できるようなシステムを企業がつくっていくような、そういう指導が行政から行われることが必要なのではないかなと感じています。

それからもう一つ、困難を抱えてる子供たちのことで、里親制度が順調に進んでないというふうなことがあったと思います。里親委託率ですから、95ページの成果指標の上から3つ目のところに13.3%、13.9%、23%という数字がありますがこれは分母が何で分子が何なのでしょう。

○岡山っ子育て局長 岡山っ子育て局長です。里親委託率について、どのような根拠の数字かと、計算の方法。

○清板委員 はい、そうです。分母、分子が。

○岡山っ子育て局長 分母は、児童養護施設とか乳児院とか、そういう施設に岡山市が措置した総数が分母になっています。その中で里親さんに委託したのが何人かということで、里親委託率を出しております。

○清板委員　じゃあ、年間の児童養護施設など、あるいは乳児院とかも含めたこの措置数の13.9%が里親に委託されてるということですか。そんなにたくさん委託されてるんですか。ということは、目標は児童養護施設などに措置される子供の4分の1を里親に委託することが目標値にあげられているんですか。

○岡山っ子育成局長　この目標値ですが、国の里親委託率の目標が国の指針において平成41年で33%と設定されているんですが、それに向かって今何%、平成32年に達成できるかということで目標を定めています。

○清板委員　わかりました。じゃあ、現在、養護に欠けるなどの理由で児童養護施設などに措置されてる子供の14%が里親委託が実現している、こう考えていいわけですね、13.9というのは。

○岡山っ子育成局長　それで結構です。

○清板委員　里親、民間として児童養護施設などへ関わっていると、里親はなかなか難しく、里親を希望する方もなかなか出にくいし、それからそういう方とマッチングしても子供は行ったがなかなかうまくいかなくて戻ってくるとかということもあって、本当に慎重な、相互の教育というか、そこまで醸成していくことがすごく大切な、難しいけれども大切な、数は少ないが、しかし重みのある問題だというふうに思います。この里親がなぜ足りないのかなとすごく私は思っていたんですが、こう数がたくさん動いてるというのであればまた話は違ってくるかと思うんですが、里親の募集ということです。それから、ファミサポの協力者の募集であるとか、シルバー人材センターの子供の支援をするための募集とか、そういった募集、あるいは利用可能性があるということのアナウンスが、やはり足りない感じがします。いい制度ですから、そういったことをしてもよい、したい、あるいはそんなのがあったら利用したいという方たちに確実に情報が伝わるような工夫がとても求められるのではないかなと思います。例えば、里親なんか、手前みそですが、不妊などで治療を求めてきている親御さん、ご夫婦がいらっしゃるところには、里親の協力ということも非常に有意義なことなんだというふうなアナウンスメントがあったりすると、希望する人は多い、出会いの場所ではないかなというふうな気がします。そういうPRをするといいんでしょうか、お知らせをしたり情報を提供する場所、それ

から人、そういうふうなところを、それを受けたい人の市民的な動機をよく読み取って、工夫する必要が足りないのじゃないかなというふうに思いました。

○越宗会長 ありがとうございます。塩見委員さん。

○塩見委員 施策のところ、心豊かな岡山っこ応援団ですけど、これ、応援して下さる団体が増えまして、大変ありがたいと思います。そして、目標値も上げていただいて、これ、非常によかったなというふうに思っております。引き続き努力をしていただきたいと思います。

それから、共働き、非常に増えております関係で、放課後児童クラブの入所希望の達成率が下がっているのが非常に気になります。施設の問題とか、それから私の聞くところでは指導員が不足しているというふうなことも非常に入れない状況の中にあるのかなと思いますので、この政策、よろしくお願ひしたいと思います。

○越宗会長 ありがとうございます。阿部典子委員さん。

○阿部典子委員 次の生活介護支援サポーターの数とか、そういうところとも関係をしてくるかもしれないんですが、特に地域づくりの面で言うと、政策の17とか、地域づくりをこれから考えるという点で、今回、被災が起こって1カ月半、2カ月経とうとしてますけれども、そういう中で引き続き困難を抱えられてる方とか状況というのは、どうしてもやっぱり日常で言うところのご近所のつながりであるとか、ご近所とのコミュニケーションであるとか、困ったときに助けてというふうに言える相手だったり仕組みだったりというものが、どれだけできてくるかというのは、とても非常時と常時というのは強く対応してるなということを実感することが多くあります。そういった点で、もちろん住民の皆さんもこういったことをきっかけに自分たちの地域を何かしら、やっぱり話ができるような関係、まとまれるような関係になりたいというふうなことも思っておられますし、話し合いの中で災害時どうだったということから始めて、これから先の自分たちが安心して健康で暮らせるという状況を皆さんと話していくということは、今とても関心も強くて、しようとされてる方々、ふだんは地域づくりなんてやってどうなるんだというふうなことをおっしゃられてた、そんな雰囲気地域も、やはりこういうことで必要だなというのは感じておられるところだと強く思いますので、こういった機会を、せっかくの、こうした大変な

ことを少しでも次に生かせるように、地域づくり、皆さんと考えていけるような、そういう機会をできるだけつくっていただけたらと思います。

○越宗会長 ありがとうございます。阿部宏史委員、どうですか。どうぞ。

○阿部宏史委員 政策17の中で、私、ESD推進協議会の会長をしておりますので、ESDプロジェクトで、これ、世界の国連のESDの10年が終わってから、また来年いっぱい、平成30年までがグローバル・アクション・プログラム期間ということで、その後のESDの扱いというのがどうなるかというのがこれから課題になろうかと思うんですけど。参加団体自体はきわめて順調で、皆さん活発に動いていただいております。後の報告事項の中でも出てきますが、SDGsとの関係で、これからESDとSDGsをうまく融合させた形での、新しい持続可能な都市づくりの活動に向けて、また考えていかないといけない時期に差しかかっておりますので、そういったことも含めて議論をしていければと思っております。

○越宗会長 ありがとうございます。この将来都市像Ⅱ「子育て・教育都市」の部分で、政策や取組につきまして、何か、ここはどうしても話しておきたいということがございましたら。よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○越宗会長 それでは、将来都市像Ⅲの「健康福祉・環境都市」、そして「都市経営」に関します施策につきまして、ご意見をいただきたいと思っております。岡本委員さん。

○岡本委員 この成果指標を見せていただきまして、かなりの項目について上昇・改善というところで、皆様方のご努力の成果かなというふうに感じております。皆さんもおっしゃっているように、概ね順調というのが、何ををもってそう判断しているのかというあたりが、きちんと詳細な評価をそれぞれの部署で行っていく必要があるのかなと感じています。高齢化については止まるわけではないし、少子化についても止まるわけではない。常に地域は変化しているというところでは、一見順調かというところでも、その変化を分析しつつ細かく内容を変えていくというようなことは常に必要だと思っておりますので、そういっ

たところで引き続きご検討いただければなと思っております。

それから、災害につきましては、私も大阪におりまして、本当に岡山が被災しているところまで心を痛めていたわけなんですけれども、大阪も地震がありまして、吹田も、本学もすぐそこが茨木というようなところで、大学自体も建物的に結構な被害があったりもしまして、学生の安否確認だとか、教員の居場所とか、帰宅困難になっているかの確認だとか、そういったことが、体系的に行われるようになっていなかったというような気があったりして、かなりその後その体制を整えるといった作業を結構したんですけれども、岡山におきましても、災害のところでは今のところはそんなに悪い評価ではないのですけれども、この機会に、被災された方、また被災しそうになった方、それぞれの地域の脆弱性であるとか、組織の脆弱性であるとか、細かくきちんと見直すよい時期なのかなというふうに思います。ですので、いろんなヒアリングをしたり、実態がどうだったかというようなことを調査をしたりして、それを行政が主体ということもありましょうが、地域が主体となって行える方法を適用するといったようなことから、地域自体が自分たちで何か考えなければという、地域へのエンパワーというようなところも含めた方法でやられてはどうかと思っております。

先ほど転出の話があった時に、幼児期からの原体験が大事だというような話が何人かの先生方から出ていたんですけれども、それも併せて、子供たちが主体となって、自分たちの地域をこれからどうしていったらいいんだというようなことを、自分たちが企画者となったりして、自分たちが考える主体となって、大人の意見も聞いたりして、というようなことをする中で、自分たちの地域をどうしようということに主体性を持つというんですか、そういったこともこの機に方向づけていくといいのではないかなと思います。また、それがメディアなんかにも取り上げられて、役に立つ子供たち、役に立つ地域の住民たちというようなところが、みんなの認識するところになるということが、承認されたという意識にもなり、役立ったという意識にもなり、より地域に根づく気持ちが醸成されるのではないかと思いますので、またそういうことも考えていかれたらいいのかなとも思います。後で出てくるサステナビリティの分にもつながっていくのかなと思いました。以上です。

○越宗会長 他にはございませんか。阿部宏史委員さん。

○阿部宏史委員 この環境の中で、政策26のホタルの生息地というのが減っているのが

少し気になったんですけども、岡山市の場合、都心部を含めて、ホテルがかなり広範に生息しているというのが一つの都市の特色ではないかと思うんですけども、やはり用水路の護岸の状況とか、そういったものをできるだけホテルが住みやすい環境というのを意識してつくっていかないと、なかなか生息地が増えていかないんじゃないかなと思います。ESDプロジェクトの中でもかなり意識してやっているところもありますので、是非そういったところを、市民の活動を支援して、積極的に生息地を増やすような取組を進めていただければいいと思います。

○越宗会長 都市経営といいますか、行財政運営の部分で加藤委員さん、ご意見はないですか。

○加藤委員 行財政という分野ではないんだとは思いますが、最初の経済の関係の中でちょっと言い漏れたことが幾らかあったんですが、特に新しい企業が出来ているのかどうか。起業しているのかどうかとか、結局、これから高齢化社会の中で後継者がいらっしやらないということで、企業自体を畳もうかという、こういうことが大きな問題になりつつあって、今までもあったんですが、人の後継者をどういうふうに、私ども銀行は銀行として情報やら人の紹介やら、そういうものも仕事の中でありましてけれども、本当に基本的には今までやっていた企業が、順調と言っている、後継者があと5年ぐらいでやめようかなと。今ここで投資すると、さらに効率が良くなって企業が伸びるというような状況でも出来ないというような状況もありますので、そういう中で、やはり人の情報、人のマッチングとか、そういう部分が行政の仕事ではないかもしれませんが、行政、それから企業、民間、学区もそうなんだと思うんですが、そのための仕組みをいろいろ考えておられますけれども、早く良いやり方ができていったらいいのかなというふうに思っております。以上です。

○越宗会長 この「健康福祉・環境都市」を目指す施策や取組について、何か意見がある方がいらっしやいましたらお願いしたいと思いますが、特にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○越宗会長 それでは、実は時間が大分押しておりまして、今現在が予定の時間なんです

けど、若干延長をさせていただくのをご了承いただきたいと思います。

分野別計画を最初にやって、その後、区別計画について申し上げました。もう区別計画につきましても、分野別計画のほうで随分網羅されておりますが、でもあえてこの部分でちょっと意見を述べたいという方がいらっしゃいましたらどうぞ。

杉山委員さん、どうぞ。

○杉山委員 205ページにあります。空港南側の産業団地の近くを通ると、すばらしい団地ができてるといふのを強く感じています。あれだけの立地にあんな立派なものが出てくるわけですね。桃太郎線LRT化とか、いろんなことで今大きく、岡山市は動いてらっしゃいますが、恐らく産業面ではすごくインパクトのあることだと思います。産業誘致ではどれぐらいこっちの希望を入れるのかというのは難しいかもしれないんですけど、是非コンセプトをつくっていただいて、こういう業種、こういう人たち、あるいはこういう企業が10年後、20年後の岡山をつくるんだというふうなことを是非真剣に考えていただいて、企業誘致を是非実現していただけたらと思います。これはとても素晴らしいことだと思います。

○越宗会長 ありがとうございます。ほかに何かございますか。片山委員さん、どうぞ。

○片山委員 満足度の調査というのがあります。実際の成果指標では8割方、事務事業では9割方順調、概ね順調であり、また傾向としても矢印が上向きになっているんですが、よく見ますと、満足度というところは下がっているというのが大変多く見受けられるように感じております。これだけたくさんの方の事業を一生懸命やって、それで満足度というところが全然上がらなくて下がってしまっている。そんなに大きくは下がってないとは思いますが、少なくとも上がっていない、下がっている満足度のところが多い。どのようにして満足度を測るのかわかりませんが、このギャップのあるところをもう少し深掘りして、なぜ満足度につながっていないかということも考えてみる必要があるんじゃないかと思いました。

○大森市長 その点、ちょっといいですか。

○越宗会長 はい。

○大森市長 私も同じことを考えまして、どうして満足度が上がらないのかということについて調べてみると、不満という項目もあるんです。そこを見ると、例えば満足度10%であれば、不満というのも7、8%で、大体が中庸のところになっているという状況が全体としては多い。で、この満足度が上がっていかないのは、例えば一定の中、変化があって、一定の施策が進んでいくと、今度はそこを起点にまたやるように、満足度を、2、3年、それを起点に余り大きな動きがなければ、今回、逆に作用していくみたいな、そういう人間の心理みたいなのもどうもあるんじゃないかと。したがって、こういう満足度をKPIにすること自体にちょっと問題が出ているんじゃないのかなという感じをちょっと受けています。そういう面では、分析をするとともに、次の、例えば後期計画の時にこういう満足度をどうやって扱うのかということもちょっと議論をしていきたいと思っています。

○越宗会長 ありがとうございます。ほかに、区別計画について、ご発言ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

## 5 報告事項（1）岡山市の主な取組状況

○議長 では、ないようでございますので、次に報告事項に移りたいと思います。岡山市の主な取組状況について、事務局の説明をお願いします。

○事務局（安東） それでは、市の主な取組状況について3点ご報告させていただきたいと思います。お配りしております、資料「岡山市の主な取組状況」をご覧ください。

まず1点目は、「G20岡山保健大臣会合について」でございます。資料の1頁、2頁をご覧ください。

日本初開催となるG20首脳会議にあわせて開催される関係閣僚会合のうち、保健大臣会合が2019年10月19日（土）20日（日）に岡山市で開催されます。去る5月30日には、庁内にG20保健大臣会合推進本部を立ち上げ、全庁を挙げて推進する体制を整えるとともに、今月10日には、県をはじめ、経済団体や市民団体、医療関係団体等の皆様のご賛同のもと、G20岡山保健大臣会合支援推進協議会を設立いたしました。今

後、G20岡山保健大臣会合の成功に寄与するべく官民一体となって準備を進めてまいります。

次に、SDGs未来都市について、でございます。資料の頁、4頁をご覧ください。

岡山市はこの度、SDGsの達成に向けた優れた取組を提案する自治体として、国から「SDGs未来都市」に選ばれました。この選定は、岡山市の強みである保健・医療分野の蓄積や健康寿命の延伸を目指すまちづくり、地域に根差したESD活動の広がりといったまちのポテンシャルを活かし、市民生活の最も基本的な要素である「健康」に重点を置いた提案が、SDGsを通じて地方創生を目指す都市として期待を受けたものと考えており、岡山市としては、SDGsの全庁的な推進本部を立ち上げ、まずは提案した健康づくりの取組を進めるとともに、適宜、新たな分野に取り組み、持続可能なまちづくりを図ってまいります。

最後に、「古代吉備の遺産群を舞台とした桃太郎伝説」の日本遺産認定について、でございます。資料の5頁、6頁をご覧ください。

岡山市、倉敷市、総社(そうじゃ)市、赤磐(あかいは)市の4市合同で申請しておりました『「桃太伝説」の生まれたまち おかやま～古代吉備の遺産が誘(いざな)う鬼退治の物語～』が日本遺産に認定されました。6月27日には、事業の実施機関として、行政、観光関連団体、商工関連団体、マスコミ、文化財管理者等による日本遺産「桃太郎伝説の生まれたまち おかやま」推進協議会を設立いたしました。今後は、日本遺産を活用し、地元のみなさまや関係する団体の方々と「自ら活動する地域」を目指し、様々な取組を行ってまいりたいと考えています。

以上で、市の主な取組状況についての報告を終わります。

○越宗会長 ただいま説明がありました岡山市の主な取組状況につきまして、皆様のご意見をいただきたいと思っております。梶谷委員、どうぞ。

○梶谷委員 本当にいろんなイベントというか、岡山を変えるきっかけになるものがスタートしたなということを感じております。

まず、G20の保健大臣会合なんですけども、これは大臣会合そのものは非常に国際的なものであって、ここにあるプレイベントですとか、サイドイベントをどうつくっていくかということが、このG20をサポートすると同時に、その後の岡山発信に向けての大きな課題になろうかと思っております。ここのところのプレイベント、サイドイベント等の、それ

それ今どのようなことを計画をされようとしているのか、どんな目的でこれを展開されようとしているのか、そのためにはどのようなところを対象にした事業、どんな企画か、組織を巻き込んで考えていかれようとしているのかあたりを少し教えていただければと思います。

それから、SDGs 未来都市は、ESDの蓄積があつてということが非常に大きなポイントでもあろうかと思えますし、先ほど阿部(宏)先生からもありましたけども、ESDからSDGsへどう取組を推進していくのかですとか、それからここは全庁的な体制づくりということでありましたけども、やはりSDGs 未来都市が本当に進んでいくかどうかというのは、市民がどれだけこれに関われるかが大きなポイントであろうと思えますので、市民の巻き込み、市民の取組について、これからどのように考えられておるのか。いろんな事業そのものは市民の関わるようなものが上がっていますが、この運動そのものをいかに市民が主体的に取り組めるようなものにしていこうとされているのか教えていただければと思います。

それから、日本遺産、桃太郎伝説についても、日本遺産になったと言われてもまだまだ市民の認識が少ないと思えますので、市民がまずこの桃太郎伝説を身近なものとして、市民自らがいろんな仕掛けをしていただけるような、そんなところへ向けての仕掛け等を考えられているものがありましたら教えていただければと思います。

○越宗会長 それでは、ただいまの梶谷委員の発言ですけれども、現時点で考えていらっしゃるようなサイドイベントなど、そういったものがお話しただけでしたら是非お願いしたいんですが。

○大森市長 じゃあ、私が話をさせていただきたいと思えますが、G20のほうはまだこれから厚労省と話をしていかなければならないんですが、我々としては、G20に岡山を発信するだけではなくて、これを機に様々な医療・福祉面のプラスになるものを形づくっていきたいなと思っているんです。1つは、これは岡山大学を中心に、今、臨床技術が相当動いてますから、そういったところをどういうふうにしていくのか。それからあと、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジといって、旭川荘等々の、そういう福祉系の様々なものをこういったところでどう発展させていくというか、評価していくかというような話や、幾つか、そのほかはSDGsとも相通ずるんですが、SIBといって、ソーシャル・インパクト・ボンド、これは梶谷さんにはお話ししたことがあると思うんですけども、いわゆ

るSPCつくって、ここに中銀さんおられますけど、そういった金融機関から融資をしていただいて、具体的な健康増進事業をSPCがやると。で一定の成果が出たら、市がそれに対してお支払いをしていく、こういう仕組み。これは市民全体の相当数が動いていくということになっていくと思いますので、市民の大きな動きが関係してくるだろうというように思っております。

最後の日本遺産のところについては、これから国から交付金が、全額だったと思いますが、交付金が相当数出ます。それでまずはニーズ調査をやれって話が出てきてるんで、そういう過程の中で、これは市民を巻き込んだ形でやっていかなければいけないと思っています。具体的なイベントまでは整理できていませんが、徐々にやっていきたいと思えます。これはでも経済界も一緒になってやっていただかないと物が前に進みませんので、よろしく願いいたします。ここは杉山先生のご発案で出てきたものがどンドンどンドン発展してるところでございますので、よろしく願い申し上げたいと思えます。

○越宗会長 ありがとうございます。どうぞ。

○杉山委員 今、大森市長さんからお話があったように、この桃太郎伝説が日本遺産に認定されました。日本遺産は既に67も認定されているようですが、日本遺産というロゴを活用してこちらも桃太郎に併せて一生懸命PRしていかないといけないと思えます。先ほど、まだこれからの段階だということで、ニーズ調査から入っていくんだということなんですけど、とにかく桃太郎伝説をどう取り上げるのかということは重要です。何かシンボリックになるようなお土産品とか、食べる物とか、何か楽しい物を是非作っていただけたらと思えます。伝説だけの古い物だけではとても皆さん飛びつきません。是非何か、「きびだんご」を超えるようなものを考えていただけたらと思えます。

○越宗会長 ありがとうございます。G20にしてもSDGsにしましても、経済界、あるいは役割を担う団体だけじゃなくて、やっぱり市民が、何ていうんですか、一緒になってこの岡山市挙げて歓迎するという雰囲気づくり、是非力を入れていただきたいなど。市民の誇りに思えるような、そういう会合にするために、PR、是非これに努めていただきたいと思えますし、それとSDGsという言葉も、知っている人は知っているんでしょうけども、なかなかやっぱり理解しづらい部分もあろうかと思えますので、わかりやすい言葉で市民に説明をしていくということにも力を入れていっていただきたいと、そんなふう

に思います。

よろしゅうございますか、皆さん、これに関してのご意見は。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○越宗会長 それでは、ちょっと若干予定時間をオーバーいたしましたけれども、これで本日予定しておりました議事を終了いたしました。それでは、事務局のほうへお返しをいたします。

○事務局（草野） ありがとうございます。それでは、閉会に当たりまして、大森市長のほうからご挨拶を申し上げます。

○大森市長 今日はどうもありがとうございました。意見を参考にさせていただいて、これからの市政運営に努めてまいりたいと思います。

まずは、人口問題が一番議論になったと思います。阿部先生の言われるように、年代層に応じて分析したらどうかと。我々、ちょっと今日、資料が多くなるので出しませんでしたが、分析をやってみました。もう圧倒的に22歳の、要するに大学の卒業段階で東京へ行くという人が圧倒的であります。そして、特に景気が良くなって、有効求人倍率が増え、大企業の採用枠が増えると東京に行っているということでもあります。これ、横の分析をしますと、何といても一番上には仙台なんです、これ。2番目が、たしか大阪だったと思います。岡山も14番目に転出の多い都市であります。もちろん、皆さん方ご指摘いただいたように、岡山市の魅力を高めていく、また塩見さんおっしゃったように教育も必要だろうと思いますが、私はもうそれだけじゃなくて、もうこれ、全国の大きな構造変化をもたらす施策がやっぱり必要不可欠だというように思います。拠点強化税制といって、大企業のヘッドクォーターが地方に行った場合に税制優遇するという制度がございますが、全く機能していないという状況であります。今、政府のほうでもその対策についての議論をしているということは伺っているところでありますが、そういうメディア、経済界、学会、それぞれから大きな動きをやはり起こしていただきたいというのが我々の気持ちでございます。

次に、保育所の話が少し出たかと思えます。実は、これも来年の10月から政府のほうで予定している無償化の問題もあります。こうなるともっと保育の需要が増えていくとい

うことで、アンケートをさせていただきました。そうすると、今保育所に行ってるのが、大体、生まれた、当該お子さんたちの約半分ですが、今回のアンケート調査によると3分の2まで増えているというようなことになっております。先ほどのご指摘、もっと逼迫する可能性もありますので、我々としてはまだ具体的な計画をどうこうするというところまで検討を行っておりませんが、来年度予算を出させていただくまでには計画の変更もやっつけていかなければいけないなというように思っているところであります。

そのほか、様々なご指摘をいただきました。後できちっともう一度整理しまして、我々、前に向けて検討していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。今日はありがとうございました。

○事務局（草野） これをもちまして平成30年度第1回岡山市基本政策審議会を閉会いたします。皆様お疲れさまでございました。

閉会